

# 10課

12月5日

## 芸術や科学における教育



安息日午後 11月28日

### 暗唱聖句

天は神の栄光を物語り／大空は御手の業を示す。(詩編 19：2、新共同訳)

もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす。(詩篇 19：1、口語訳)

### 今週の聖句

ローマ 1：18～21、詩編 19：2～7(口語訳 19：1～6)、詩編 96：9、創世記 3：6、  
1テモテ 6章、箴言 1章、ヨブ記 38章

### 今週のテーマ

教育には、「芸術や科学」と呼ばれてきたものが含まれます。しかし、私たちが芸術や科学を聖書の視点から学んだり、教えたりするとき、それはどのようなことを意味するのでしょうか。例えば、私たちは単純に、現代医学や美術史の何らかの側面に関連する聖句をえりすぐって提供しているのでしょうか。そうすることによって、私たちは実用的な教科を、私たちの複雑な世界を創造された神の驚くべき力に関連づけることができます。しかし、教科書の学習に聖書をただ組み込むことは、真の教育(救済とあがないをもたらす教育)のごく一部にすぎません。

そのような教育が本当に機能するためには、人文科学から分子生物学に至るまで、私たちはすべての学科の授業を提供するために神の言葉を必要としています。神の言葉がなければ、私たちは神の大きさ、この世の創造主、支え主としての神の支配権を忘れてしまうのです。神がご自分の被造物をいかに有機的で目的あるものと見ておられるかをわかってもらうことで、私たちは特定の学科をいかに教えることができるか(また教えるべきか)、少しずつ理解できるようになります。

私たちは今週、キリスト教の視点と世界観からいかに芸術や科学を教えることができるのかということに関するいくつかの原則に目を向けます。

生きておられる神の証拠は、あらゆる被造物の中にあります。この言葉は何度も繰り返されてきたので、ありきたりな決まり文句になっています。例えば、私たちはこの世界（やがて人間が傷つけ、損なってしまった世界）を創造されたときの神のお気持ちを考えるとき、芸術と科学を最もうまく教えることができるようになるかもしれません。

例えば、人間の妊娠期間を取り上げてみましょう。生物学は、知的人間の新しい生命が一つの受精卵からあらわれ、成長して9か月後に赤ちゃんになると教えています。愛情深い創造主のしるしは、この期間の至る所に見られます。神の愛情深い優しさは、胎児が成長する場所にも見られます。そこは、母親の心臓がしっかり鼓動しているすぐ下です。胎児が大きくなるにつれて、母親の腹部も前へ大きくなります。妊娠中の母親は、私たちの天の父がご自分の子らのことを常に意識しておられるように、自分の子どものことを常に意識させられるのです。

**問1** ローマ1：18～21、詩編19：2～7(口語訳19：1～6)、ネヘミヤ9：6  
を読んでください。これらの聖句は、私たちの創造主としての神の働きについて、何と述べていますか。

罪を犯してから6000年、大洪水による世界規模の荒廃から数千年を経た今でも、創造主としての神を示す証拠だけでなく、創造主としてのこの神の力と愛と情け深さを示す圧倒的な証拠が存在しています。実際、それがはっきりしているので、パウロはローマ1：18～21で、この神を認めない人たちは裁きの日に「弁解の余地がありません」と述べています。なぜなら、神について、神が造られたものから十分に学ぶことができるからです。言い換えれば、彼らは、知らなかったと弁明できないのです！

多くの人間が創造主ではなく、被造物を礼拝するようになった時代にあっては、とりわけ、芸術と科学におけるキリスト教教育が、神は創造主であり、存在するあらゆるものの支え主であるという前提で常になされることは、なんと重要なことでしょう。最終的に、神を否定したり、排除したりする思想や前提は、誤りをもたらししかありません。世俗の教育は、神がないという前提でなされているも同然ですが、キリスト教教育は、そのわなに陥ってはなりませんし、もっとさりげない形であれ、神がないという前提に基づく原則に従ってなされてもなりません。いずれにしろ、人間は最終的に誤りを犯すことが避けられないからです。

問2 詩編96：9には、「聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。全地よ、御前におののけ」と書かれています。「聖なる輝き」というものを、私たちはどのように理解したらよいのでしょうか。クリスチャンにとって、これはどういう意味ですか。またこれは、芸術と、しばしばそれに伴う美について私たちが教えることに、どのような影響を及ぼすべきでしょうか。

「美は見る人の目の中にある（美の基準は、見る人によって異なる）」と言われてきましたが、私たちは、そもそも目を造られたのがどなたであるかということをおぼえてはなりません（箴20：12）。私たちは、被造物そのものを礼拝しないように注意しなければなりません（きのうの研究を参照）、被造物の美しさから神について、また確かに、美しさに対する神の愛について学ぶことができます。もし墮落した私たちの世界が今でも美しいなら、罪に墮ちる前がどのようなであったか、だれに想像ができるでしょうか。そしてこのことは、神が確かに美の創造主であられることを私たちに教えているのです。

従って、芸術と科学の勉強は、神のご品性やみ心に私たちを向けさせることができますし、そうすべきです。私たちは、神の芸術作品、科学的現象の一部ですから、キリストにある自分の正体についてもっと学ぶことができます。

「神は、ご自分の子らがみ手のわざを感謝し、また、私たちの地上の住みかを単純に、しかも落ち着いた美しさをもって飾ってくださったことを喜ぶよう望まれます。神は美を愛されますが、外面的などんな美しさよりも品性の美しさを愛されます。神は、私たちが花のように純潔、単純で、静かな優しさを養うよう望んでおられるのです」（『キリストへの道』改訂第3版文庫判121ページ）。

問3 創世記3：6を読んでください。この聖句は、美しいものが必ずしも良い（あるいは、聖い）とは限らないことについて、何を教えていますか（箴6：25、31：30も参照）。

神が造られたすべての美しいものをゆがめ、悪用する敵がいます。従って、美や美の概念が私たちに不利になるように用いられることもあるというのは、至極当然です。それゆえ、特に芸術において、聖書によって導かれるキリスト教教育は、あらゆる美しいものが必ずしも良い（あるいは、聖い）とは限らないことを私たちが慎重に理解する手助けをしなければなりません。

私たちは、神に栄光を帰すことのない芸術や哲学がこの世界にかなりあることを知っています。多くの方が、クリスチャンはこのような好ましくないことを学ぶべきでないとさえ言うでしょう。セブンスデー・アドベンチスト教会のクリスチャンは、ある業界で働くこと、ある組織を支援すること、あるメディアを使うことなどを慎重に検討しなければなりません。

**問4** Iテモテ6章1～10節の中で、追い求めるべきでないものについて、明確な指示とともに多くの説明も私たちに与えられています。パウロは9節と10節で、何を追い求めることを牽制していますか。

**問5** Iテモテ6章の残りの部分を読んでください。追い求めるべき重要なもので、パウロが支持しているのは何ですか。

Iテモテ6:20で、「不当にも知識と呼ばれている」ものをパウロがいかに牽制しているかに注目してください。彼は異なる状況の中で働いていましたが、その原則は今でも適用可能です。つまり、現代だけでなく、人類史を通じて、まったく誤っていたあらゆる情報、あらゆる教え、あらゆる信仰について、考えてみてください。確かに、人間は間違った教えの専門家になりえます。

ほぼ2000年の間、この世の最も優秀な人たち、専門家たちは、地球が宇宙の中心にあり、あらゆる恒星や惑星は、完全な円軌道で地球の周りを回っていると信じていました。この考えを強化するために、非常に複雑な数学や科学が用いられましたが、ほとんどすべての細部において、それは間違っていることがわかったのです。それゆえ、この人たちは間違った教えの専門家であり、このような教えはまさに「不当にも知識と呼ばれている」ものであったと、私たちは言うことができます。

例えば、今日、生物科学は、生命が何十億年も前に（神もなく、目的もなく）偶然発生したという仮説の上に基礎を置いています。同時に、膨大な量の、複雑で詳細な科学文献がこの教えに基づいて生み出されてきました。私たちはこのことから、人間が間違った専門家になりうるということについて、どのような教訓を得ることができますか。そのことを自覚することで、キリスト教教育全般や、特に科学を教えることは、どのような影響を受けるべきですか。

問6 箴言1章を読んでください。真のキリスト教教育はどのようなものであるべきかということについて、私たちはこの章から何を学びますか。

聖書は、愚かさと知恵をしっかり比較しています。箴言は、無謀な行動や愚か者と付き合うことの危険を、私たちにうまく思い出させてくれます。その違いは明らかです。神は、ご自分の民が知恵を求め、大切にし、知恵に富むことを願っておられます。

芸術や科学の学生たちは、知識を獲得し、学業において優秀であろうとして自分の才能を用います。こういった学科の教師たちも同様です。私たちが芸術的才能を発揮し、科学的に飛躍できるのは、知識と能力のおかげなのです。

しかし、キリスト教的観点から見ると、芸術や科学の知識は、もし是非や善悪や真偽の違いを知ることがそこに含まれていないのなら、いったい何を意味するのでしょうか。例えば、すばらしい技術や能力を持つことと、道徳的な生活や正しい生き方をすることが同等視できないことは、世界で最も偉大な芸術家と見なされる人たちの人生について少し読みさえすれば、わかります。生物学的、あるいは化学的大量破壊兵器の製造に携わった偉大な科学者たちは、高度な教育を受け、類まれな才能に恵まれていたかもしれませんが、彼らの仕事の成果は何でしょうか。先に述べたとおり、知識それ自体は、必ずしも良いものではないのです。

問7 箴言1:7を読んでください。この聖句は、真のキリスト教教育の鍵であるものを、いかに明らかにしていますか。

ノーベル賞受賞者で、宇宙とその背後にある物理的力について研究した無神論者が、次のように書いています。「宇宙が理解できるようになればなるほど、ますますわからなくなる」と。知識それ自体は、無意味になりえるばかりでなく、もっと悪いことに、とんでもない間違いをもたらすことがあります。このことについて、私たちは先の学者の言葉から何を学ぶべきですか。

問8 ヨブ記 38 章を読んでください。この章は、創造主としての神についてだけでなく、万物の支え主としての神について、どのようなことを教えていますか。この重要な真理は、芸術や科学に対する私たちの理解の仕方に、どのような影響を与えますか。

「物体には、生命力があると多くの者が教えている。すなわち、ある特質が物体に与えられて、それはその固有の能力によって活動するようになっている。そして、自然の営みは、一定の法則に従って行われていて、神ご自身でさえそれに干渉することはできないと彼らは言う。これは、偽りの科学であって、神の言葉の支持を受けていない。自然は創造のしもべである。……自然は、その法則のなかに一貫して、知性と実在と活動的勢力とが働いていることを証明している。父とみ子とは、自然のなかで、絶えず働いておられる。キリストは言われた。『わたしの父は今に至るまで働いておられる。わたしも働くのである』(ヨハネ 5:17)」(『希望への光』25 ページ、『人類のあけぼの』上巻 34 ページ)。

先にも述べたとおり、残念ながら多くの科学は、無神論的かつ物質主義的前提に基づいてなされています。これはつまり、科学者が最高に美しいものや最高に複雑なものを、あるいはその両方を見つめながらも、それは偶然生じたものであって、事前の計画も意図もその背後にはないと主張するということです。

実際、科学がいつも主張するのは、こういうことです。あらゆる美しさと複雑さの中にある地球上の生命は、蝶から人間に至るまで、何十億年も昔に化学物質が単純な命をたまたま形成し、突然変異と自然選択を通して、今日、生き、動き、呼吸するあらゆるものに進化した結果以外の何物でもないと言明されます。

現状の科学は、超自然的創造主という考えは「非科学的」であると主張します。なぜなら、それは科学的に確かめることができず、それゆえ科学が扱えない概念であるから、というのです。この前提は、科学そのものが教えていることではなく(実際、科学は反対のことを——この世界のあらゆる美も複雑さも、確かに創造主を指し示していると——教えているように思われます)、科学者自身によってこの学科に押しつけられた哲学的見解です。

しかし問題は、神がすべてのものを創造されただけでなく、すべてのものを維持しておられると聖書が教えていることです。これは、キリスト教の真の科学教育が、一般の科学の主張することとは根本的に異なる前提でなされなければならないことを意味します。とりわけ起源に関しては、避けがたく、衝突が起きるでしょう。

多くの物事を正しく理解する科学が、なぜ起源をこれほど誤解してしまうのか、その理由は二つあります。第一に、自然界を研究する科学が、答えを求めて自然界だけに目を向けなければならないこと。第二に、自然の法則が一定のままであり続けなければならないと、科学が仮定していること。しかし、これら二つのことは、起源に関していずれも間違っています。

最初の理由を取り上げるなら、それは自然の事象に対して自然の原因を必要とします。ハリケーンの追跡ならそれで構いませんが、「初めに、神は天地を創造された」（創1：1）という起源に関して、それは役に立たないどころか有害です。起源に関して超自然的なことを否定する科学は、まったく超自然的であった起源について、いったい何を私たちに教えることができるのでしょうか。

自然の恒常性はどうでしょうか。これは道理にかなっているように思えますが、ローマ5：12を除けばの話です——「このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです」。この聖句は、自然環境が一貫していないこと、科学の突きつけるいかなるものとも質的に異なることを前提としています。死が存在しなかった世界は、私たちが今日研究するいかなるものとも根本的に異なります。そして、異なっていたときの人々を今とそっくりであったと思ひ込むことも、誤りをもたらします。

このように、科学が起源を誤解するのは、創造の重要な二つの側面——創造の背後には超自然的な力があつたことと、当初の被造物と現在の私たちの前にあるものとの間には根本的な物理的断絶があるということ——を否定するからなのです。

### 話し合いのための質問

- ① 安息日学校のクラスで、美に関する質問について話し合ってください。美とは何ですか。私たちは美をどのように定義したらよいのでしょうか。クリスチャンは、クリスチャンでない人たちといかに違う定義づけや理解の仕方をするのでしょうか。
- ② すべてのクリスチャンが学校で教えるように召されているわけではありませんが、意図的であれ、まったく無意識であれ、クリスチャンは言葉と行動で人々を教えることができます。それゆえにクリスチャンは、キリストの生徒として、またこの世に対する教師として、どのような習慣を身につけるべきですか。